

令和3年12月16日

教育長 答 弁 実 録

（教育委員会）

（問）世界に先駆けた「学びの変革」の定着方策について

「世界に先駆ける」と公約で銘打った「学びの変革」の教育現場への定着に向け、どのようなロードマップを描き、実行につなげていこうとしているのか、その本気度について、教育長の所見を伺う。

（答）

県教育委員会では、「学びの変革」アクション・プランに基づいて、全ての教員が、令和5年度において、児童生徒の主体的な学びを充実させるために必要な資質・能力を身に付けていることができるよう、ロードマップを描き、計画的に取り組んでいるところでございます。

具体的には、平成27年度から、課題発見・解決学習を取り入れたカリキュラムの開発を進め、これを基に、探究的な学習活動に取り組む「主体的な学び」へと質的転換を図ってまいりました。

これらの成果を踏まえまして、本年度から「主体的な学び」を更に深化させるとともに、学校への定着を図るため、高等学校において、

- ・ 各学校の特色や教科等の横断的な視点に立った探究的な活動を核としたカリキュラムの開発、
- ・ 探究的な学びを実現するため、教員に必要な本質的な問いを設定する力やファシリテートする力、さらにはデジタル技術を活用する力の向上の2点をロードマップに位置付けて取り組んでいるところでございます。

まず、カリキュラムの開発につきましては、商業高校及び工業高校において、先導モデルとして、実践的・体験的に学ぶ専門学科の特性を生かした探究的な活動を核としたカリキュラムの開発を行っております。

また、文部科学省のWWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業の一環で、7月に開催した高校生国際会議において、自ら設定したテーマの研究発表や、他国の生徒等との交流に向けて、適切なファシリテーターの支援の下、論文検索や現場調査などを通して、高度な探究活動に取り組む学習モデルを開発したところでございます。

次に、教員の資質向上につきましては、探究的な学習を促す授業を展開するために必要な力を身に付ける研修を実施しております。

具体的には、ファシリテート力を身に付け、児童・生徒を深い思考や理解

へ導くための「本質的な問い」を設定した授業づくりを構想し、指導案を作成できる研修を実施しております。

また、教員のデジタル活用能力につきましては、生徒の協働学習の場面等で幅広い効果的な活用が求められており、全ての教員がデジタル活用スキルを高められるよう、目指す姿や指標等を明確にし、定期的な研修や学校訪問を通じて支援を行っております。

小・中学校におきましても、各市町に「学びの変革」推進協議会を組織し、高等学校と同様、「本質的な問い」を通じた探究的な学びやデジタル機器を効果的に活用した授業の充実に向けて、研修や実践交流を重ねているところでございます。

また、学年の異なる子供たちが協働的に探究するなどの「イエナプラン教育」の実証研究を行い、その実践を県内に発信しております。

今後、これらの取組を通して、子供たちが持っている可能性を最大限に伸ばし、新たな時代を生き抜くために必要な力をつけることができる、「学びの変革」を定着させるよう全力で取り組んでまいります。